

道銀文化財団 Art Ensemble # 18

北海道立釧路芸術館開館 25 周年記念コンサート

# シューマンたちが 夢見たおとぎ話

## TRIO ORCHIDEA

柴 恵 *Megumi Shiba* ヴィオラ

武田 匡広 *Masafiro Takeda* クラリネット

立岡 洵 *Jun Tateoka* ピアノ



2023年11月4日(土)  
14:00~14:40  
北海道立釧路芸術館  
アートホール

主催 北海道立釧路芸術館／公益財団法人 道銀文化財団

後援 釧路市、釧路市教育委員会

問合せ：道銀文化財団事務局 札幌市中央区大通西4丁目1 道銀ビル別館8F Tel 011-233-1029



## 柴 恵 しば めぐみ／ヴィオラ

横浜市出身・北見市在住

東京音楽大学卒業。ユーリ・バシュメット、菅沼準二各氏のマスタークラスを受講。クフモ音楽祭等に参加。2016年より青年海外協力隊としてコロンビアに派遣され、バトゥーダ財団のヴァイオリン・ヴィオラ講師およびカルダス県室内管弦楽団第2ヴァイオリン奏者を務める。

2019年、北見市地域おこし協力隊に就任。在任中より各地での演奏や指導に力を入れ、任期終了後の現在も北見市に留まり、各地にて活動を行っている。

## 武田 匡広 たけだ まさひろ／クラリネット

札幌市出身・別海町在住

北海道教育大学札幌校芸術文化課程音楽コース卒業。在学中、フィンランド・シベリウス音楽院へ交換留学。東京藝術大学別科修了。第3回ヤングクラリネットィストコンクール入選。札幌市新人音楽会出演。第26回コンセール・ヴィヴァン新人オーディション優秀賞受賞。2016年函館市にてリサイタル開催。これまでにクラリネットを村松時雄、渡部大三郎、ハリ・マキ、亀井良信の各氏に師事。



## 立岡 洵 たておか じゅん／ピアノ

札幌市出身・根室市在住

北海道教育大学岩見沢校芸術課程音楽コース鍵盤楽器専攻卒業、同大学院修了。ソリストとして、同大オーケストラとピアノ協奏曲を共演。

ノルウェー国立グリーグ音楽院へ派遣留学、ベルゲン国際音楽祭等に出演。

第17回エウテルペ国際音楽コンクール第3位（イタリア）、第12回グリーグ国際ピアノコンクール公式マスタークラス受講生（ノルウェー）他、入賞多数。

全道各地にて精力的に活動を行っている。

# Program

- ♪ アダージョとアレグロ 変イ長調 作品 70  
ロベルト・シューマン 作曲
- ♪ 3つのロマンス 作品 22  
クララ・シューマン 作曲
- ♪ ハンガリー舞曲 第5番  
ヨハネス・ブラームス 作曲
- ♪ 「6つの小品 作品 118」より『間奏曲』  
ヨハネス・ブラームス 作曲
- ♪ クラリネットとヴィオラとピアノのための  
「おとぎ話」 作品 132  
ロベルト・シューマン 作曲

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。

本企画は、美術館という芸術の香り豊かな空間で、若手演奏家たちが音楽という異なる芸術(アート)との調和(アンサンブル)を創造し、発表する機会を提供するとともに、今後の芸術創作活動のステップアップにもつなげていただきたいと願うものです。

また、道民の皆さまには、北海道が育んだ若き芸術家たちが創造する音楽と美術作品との素晴らしい出会いをお楽しみいただき、北海道における芸術界の未来を担う若手芸術家たちの活躍にあたたかいご声援を頂ければ幸いです。

公益財団法人 道銀文化財団



## ----- Program note

本日はご来場誠にありがとうございます。  
今回は「シューマンたちの夢見たおとぎ話」と題して、ロベルト・シューマン、クララ・シューマン、ヨハネス・ブラームスという、不思議な縁で結ばれた3人の夢見心地でロマンティックな作品を集めました。  
晩秋にふさわしい、しみじみとした味わいの音楽をお楽しみ頂ければ幸いです。

Trio Orchidea

### ♪ アダージョとアレグロ 変イ長調 作品70      ロベルト・シューマン作曲

1849年、シューマンは「3つのロマンス」等をはじめとした管・弦楽器とピアノのための二重奏曲を数多く作曲しており、この「アダージョとアレグロ」もそうした作品群のひとつ。作曲当初は「ロマンスとアレグロ」という曲名がつけられていた通り、ゆったりとロマンティックな前半部と、快活で跳躍音程が印象的な後半部の2部構成。クラリネットとピアノががっぷり四つに組み合う濃密な響きが特徴である。

### ♪ ヴァイオリンとピアノのための『3つのロマンス』      クララ・シューマン作曲

ロベルト・シューマンの妻として、8人の子供の母親として、そして才能溢れるピアニストとして活躍したクララ・シューマンが、1853年に書いた作品。3つの小曲から構成されるこの曲集は、夫の同名の曲集に影響を受けているとされる。原曲はヴァイオリンのための作品だが、10分弱の中にぎゅっと詰まった、愛らしくもどこか哀愁を感じさせるメロディーは、ヴィオラの愁いを帯びた音色にぴったりである。

### ♪ ハンガリー舞曲第5番      ヨハネス・ブラームス作曲

「ハンガリー舞曲」は、全2巻からなる大規模な曲集。この作品でいう「ハンガリー」とは、実はロマ（ジプシー）の音楽のことであり、ハンガリーとは無関係であることが現在は明らかになっているが、今もなお愛される時代を超えた名曲である。この曲集は、ブラームスやシューマン夫妻の友人で、クララの「3つのロマンス」を初演したヴァイオリニスト、ヨアヒムに捧げられた。

### ♪ 「6つの小品 作品118」より『2.間奏曲』      ヨハネス・ブラームス作曲

「6つの小品」はブラームス最晩年の1893年に作られた曲集で、この『間奏曲』は全6曲のうちの2曲目にあたる。ブラームスらしく、曲の雰囲気や全く想像できない無味乾燥な標題だが、実際にはとても叙情的で美しい作品であり、「*teneramente*（テネラメンテ／愛情に満ちて）」の指示もみられる。まるで、老いたブラームスが自らの人生やシューマン夫妻との出会いを振り返っているかのようにも聞こえるが、そう言ったら彼は怒るだろうか。

### ♪ クラリネットとヴィオラとピアノのための『おとぎ話』 作品132

ロベルト・シューマン作曲

「おとぎ話」は、晩年のシューマンが若きブラームスと出会い、その才能を絶賛した1853年の作品。全4曲からなる組曲で、特に1曲目や3曲目はまさに「おとぎ話」、つまりメルヘンチックで幻想的な雰囲気に満ちている。一方、2曲目や4曲目は打って変わって力強く、シューマンらしい弾んだリズムが特徴。この“静と動”の過剰な対比は、後に精神を病んでしまう遠因ともなった、彼の二面的な性格を強く表していると考えられる。